●〈症例〉

Helicobacter pylori 除菌療法により完全消失した山田2型多発胃過形成性ポリープの1例

萩原廣明¹⁾ 吉永輝夫²⁾ 樋口次男¹⁾萩原内科医院, ²⁾群馬県済生会前橋病院／消化器内科〔Key Words〕*Helicobacter pylori* 除菌療法, 胃過形成性ポリープ

はじめに

胃過形成性ポリープは*Helicobacter pylori* (*H. pylori*) 陽性の慢性萎縮性胃粘膜を背景として発生することが知られているが, 最近 *H. pylori* 除菌を行うことでポリープが消失する例¹⁻³⁾が報告されるようになって, このポリープの発生にはその他の *H. pylori* 関連胃疾患と同様, *H. pylori* の持続感染が深く関与していると考えられてきている。

今回, *H. pylori* 除菌療法によりすべてポリープが消失した多発性胃過形成性ポリープの1例を経験し, あらためて胃過形成性ポリープと *H. pylori* との密接な関連性を考えさせられる結果を得たので報告する。

症 例

患者: 69歳, 女性。

既往歴: 昭和60年より高血圧症, C型慢性肝炎。平成3年胃ポリペクトミー。

現病歴: 胃ポリペクトミー後も定期的に内視鏡でフォローアップされていたが, 平成7年に胃の精査を希望して来院した。

初診時現症: 身長143cm, 体重37kg, 眼瞼眼球結膜に貧血や黄疸なく, 胸部理学所見に異常なし。腹部理学所見では肝を正中肋骨弓下で2横指触知, 脾は触知せず。四肢の浮腫は認められなかった。

初診時検査所見: C型慢性肝炎に伴うZTT, GOT, GPTの上昇以外特に異常を認めなかった (Table 1)。

胃内視鏡検査: 初回平成7年3月の検査では前庭部大弯に2個, 角部前壁寄りに1個, 胃体上部大弯に2個の山田II型の過形成性ポリープを認めた。その後は半年から1年に一度の内視鏡によるフォローアップを行ったが, 特に大きさや数に変化は認めなかった。

平成9年7月の内視鏡検査でもほぼ同様の内視鏡像であり (Color 1), 前庭部大弯の白苔を伴ったポリープからの生検ではびらんと中等度炎症細胞浸潤を伴う上皮の過形成が認められた (Fig. 1)。

迅速ウレアーゼ試験 (CLO テスト Delta West) および組織培養によって *H. pylori* が陽性であったことより, 患者のインフォームド・コンセントを得て Lansoprazole 60mg, Amoxicillin 1,500mg, Clarithromycin 600mg の1週間投与を行った。

除菌療法6ヶ月後の内視鏡検査ではポリープにほとんど変化が見られなかったが, 除菌療法1年2ヶ月後の平成10年9月に行った内視鏡検査では前回見られたポリープはほぼ完全に消失しており, 前庭部大弯のおそらくポリープのあったと思われる部位にわずかな発赤が認められた (Color 2)。

発赤部からの生検では上皮の過形成の残存は見られなかったが炎症細胞浸潤は軽度で, びらんは消失していた (Fig. 2)。

同時に行った組織培養, 組織検鏡, Urea breath test のすべてが陰性であったことより *H. pylori* は完全除菌されたと判定した。更に約1年後の平成11年10月に行った内視鏡検査でもポリープの再発は認められず, 前庭部の小発赤のみ残存していた。

考 察

胃過形成性ポリープは慢性萎縮性変化をもつ背景胃粘膜から発生し, ほぼ全例に *H. pylori* の感染が見られたと報告されている^{1,2)}。このことからこのポリープの発生には *H. pylori* の持続感染が深く関与していることが考えられており, *H. pylori* 除菌療法を行ったこれまでの報告でも全例にポリープの縮小または消失効果が認められている¹⁻³⁾。

ポリープの消失機序としては *H. pylori* 持続感染による胃粘膜の浮腫, 炎症細胞浸潤および胃粘膜増殖促進状態の消退¹⁾が考えられており, 本例でもびらんの消失および炎症細胞浸潤の軽減とともにポリープの消失が認められた。本例で残存したポリープ消失後の粘膜発赤は, 菅野ら¹⁾が, 肉眼的にはポリープが消失した部位の近傍からの生検組織像にもこの発赤部からの

Table 1 Laboratory Data in the first examination.

WBC	2700/mm ³	ZTT	19.9KU
RBC	494 × 10 ⁴ /mm ³	GOT	69IU/dl
Hb	15.2g/dl	GPT	59IU/dl
Ht	47.0%	γ-GTP	27IU/dl
Plt	141 × 10 ³ /mm ³	TP	8.1g/dl
		A/G	1.45
FBS	80mg/dl	T.Bil	0.77mg/dl
S-Amy	134IU/dl	T. chol	200mg/dl
HbA1c	4.6%	TG	81mg/dl
		HDLchol	85mg/dl
HBsAg (−)		Fe	124 μg/dl
HBsAb (−)		ChE	4.7 × 10 ³ IU/l
HCVAb (+)		Stool Occult Blood (−)

Fig. 1 Histological findings of the biopsied specimen from gastric polyp revealed hyperplasia of foveolar epithelium with moderate infiltration of inflammatory cells and erosion.

生検組織像と同様の上皮の過形成や軽度の炎症細胞浸潤などの所見は残存していたことを報告していることから、ポリープ消失後の粘膜変化であろうと考えられた。

しかし、これまでには除菌後のポリープ消失部に粘膜発赤が残ったという報告はなく、また組織学的には上皮の過形成が残存して見られるなど、過形成性ポリープ発生における初期の粘膜変化の可能性も否定できないことより今後も経過観察を要すると思われた。

除菌療法後の効果判定期間については、本例が完全消失までに1年2ヶ月を要したこと、また除菌後1年8ヶ月経って消失したポリープ例の報告¹⁾などから通常で2年、大きなポリープ症例ではそれより更に長期の観察期間が必要であると考えられた。

おわりに

今後、更に多く検討がなされポリープの縮小、消失効果が確実になれば、*H. pylori* 除菌療法は出血の危険や再発の可能性もある内視鏡的ポリペクトミーに代わる新しい治療法となるものと考えられた。

文 献

- 1) 菅野健太郎, 福嶋康之, 矢崎義雄, 他: *Helicobacter pylori* 除菌により消失した胃過形成性ポリープの一例, *Helicobacter Research* 1: 102-105, 1997.
- 2) Ohkusa T, Takashimizu I, Fujiki K et al: Disappearance of Hyperplastic Polyps in the Stomach after Eradication of *Helicobacter pylori* *Annals of Internal Medicine* 129: 712-715, 1998.
- 3) 原 猛, 阪口 昭, 竹中成之, 他: *Helicobacter pylori* 除菌により改善をみた多発胃過形成性ポリープの1例, *Gastroenterol Endosc*, 42: 36-40, 2000.

Fig. 2 Histological findings of the biopsied specimen from mucosal redness on antrum revealed hyperplasia of the foveolar epithelium with mild infiltration of inflammatory cells.

A Case of Disappearance of Yamada's Type II Multiple Hyperplastic Polyps of Stomach by Eradication of *Helicobacter Pylori*

Hiroaki Hagiwara¹⁾ Teruo Yoshinaga²⁾
Tugio Higuchi

A 69-year-old woman who had underwent endoscopic polypectomy of stomach before 4 years was admitted to my clinic for endoscopy. In endoscopic examination, five polyps classified Yamada's type II were located on greater curvature of antrum, anterior wall of angulus and greater curvature of upper body. Histological findings of biopsied specimens from these polyps revealed hyperplasia of the foveolar epithelium with moderate infiltration of inflammatory cells which was consistent with hyperplastic polyp. These polyps were unchanged during 2 years and *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) was found by the CLO test and cultures of biopsied specimens.

She was treated with one week course of lansoprazole, amoxicillin and clarithromycin. About 14 months later, all polyps were disappeared and eradication of *H. pylori* was confirmed by biopsy, cultures and Urea breath test.

These result suggests that eradication of *H. pylori* may be expected as a useful treatment to hyperplastic polyp of stomach.

¹⁾Hagiwara Clinic, Maebashi. ²⁾Department of Gastroenterology, Gunma-Ken Saiseikai Maebashi Hospital.

<カラーは5頁に掲載>